

コンビニのゴミ箱に捨てた ゴミはリサイクルされるの？

ゴミ処理の仕事

リサイクルに関わる仕事

環境にやさしい仕事



株式会社木下フレンド

<http://www.k-friend.co.jp/>



家庭のゴミの回収は市町村などの自治体の仕事だよ。
では、コンビニなどのお店のゴミ箱に捨てたゴミは、誰が回収・リサイクルしているのかな。木下フレンドに聞いてみました。

A 「中間処理施設」で資源ごとに分けられた後、
リサイクルされているよ。

そういえば、コンビニやスーパーなどで
捨てたゴミが回収されるところ、
見たことないボン！

コンビニなどに設置されているゴミ箱は「リサイクルボックス」ともいうんだって。ここに捨てられたゴミがどうなるか、見ていこう。



①回収して中間処理施設へ

人が少ない深夜から
明け方に運搬される

ゴミを資源としてリサイクル工場に渡す役割を担う「中間処理施設」に運ばれるよ。運搬の時には、およそ1トンのゴミを積める「バッカー車」が大活躍！



②選別

中間処理施設でプラスチックや缶、
ペットボトルなどの資源ごとに分ける

中間処理施設ではまず、ゴミを資源ごとに選別するよ。選別は人の手で行うほか、下の写真のような光学式選別機を使用するんだ。ペットボトルや缶に飲み残しがあると、選別が大変。飲み物の容器は、全部飲んでから捨てようね。



④リサイクル工場で再利用へ

再びさまざまな形で社会の役に立つ

中間処理は、
ゴミから
リサイクル資源を
生み出す仕事
なんだね！

資源としてリサイクル工場に運ばれたペットボトルやプラスチックなどは、さまざまなモノに生まれ変わってもう一度暮らしの役に立つよ。



**中間処理施設
の役割**

③圧縮

資源ごとに圧縮して容積を減らし、
立方体の形にして運びやすくする

選別が終わったら、資源ごとに圧縮する。圧縮された資源は「ボール」っていうよ。右の写真は、ペットボトルのボール。この形で、リサイクル工場に運搬されるんだ。



こんな資源に分けられているよ



ペットボトル



アルミ缶/スチール缶



硬質・軟質プラスチック

どうして中間処理が必要なの？

中間処理施設に集まるゴミの種類(一部)



ペットボトル



アルミ缶/スチール缶



金属くず



硬質・軟質プラスチック

ゴミにはいろんな資源が
混ざっている…

お店や会社にあるリサイクルボックスやゴミ箱には、ゴミが分別されずに捨てられてしまう。だから中間処理施設で資源を選別する必要があるんだ。

きちんと分けると
資源によみがえるよ！

リサイクルの第一歩は、ゴミを資源ごとに分別すること。きちんと分別することで、ゴミは再利用できる資源へと生まれ変わるよ。

家でも
学校でもお店でも、
ゴミは分けて
捨てなきゃいけない
んだね。



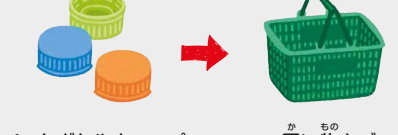
プラスチックや飲料容器はどうリサイクルされる？

マテリアルリサイクル

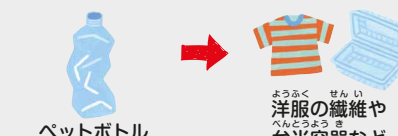
*「マテリアル」とは「素材」「材料」という意味だよ



アルミ缶/スチール缶 アルミ缶・鉄筋など



ペットボトルキャップ 買い物カゴ



ペットボトル 洋服の繊維や弁当容器など

ケミカルリサイクル

*「ケミカル」とは「化学的な」という意味だよ



軟質プラスチック 油やガスなど

水平リサイクル
(ボトル to ボトル)



ペットボトル ペットボトル

集まるゴミの多くを占めるプラスチックは、新たなプラスチック製品の素材に生まれ変わる「マテリアルリサイクル」、石油やガスなどの化学物質に生まれ変わる「ケミカルリサイクル」、ペットボトルが再びペットボトルになる「水平リサイクル」の3つの方法でリサイクルされるよ。

ポイント リサイクルは
地球を長生きさせる！

リサイクルが進めば、限りある地球資源のムダ遣いを減らせるだけでなく、ゴミの焼却時に排出されるCO2も減って、地球温暖化の対策にもなる。リサイクルは、地球そのものを長生きさせるための取り組みといえます。

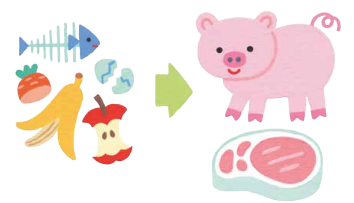
私たちは地球に
やさしいことをする会社です

答えてくれた人 株式会社木下フレンド
リサイクル事業部 所沢工場 工場長 下村一徳さん(右)
管理部 人事課 係長 藤野幸江さん(左)

木下フレンドは中間処理の仕事で資源を生み出す環境インフラ企業です。200台以上の運搬車でゴミを片付け、街を清潔に保っています。コンビニやスーパーだけでなく、駅やテーマパークなどからもゴミは必ず出ます。それらをきちんと処理し、限りある資源を大切に扱う仕事です。また、企業や学生の方々への工場見学や環境学習を通じ、資源循環の重要性を世の中に伝えていくこともリサイクルのエキスパートである私たちの役割です。リサイクルの輪を広げ、地球環境を考える企業であり続けます。



学校給食の食べ残しも
無駄なく活用！



木下フレンドのグループ会社ジェイ・アール・エスは、小学校から出た給食の食べ残しを、豚を育てるための飼料(エサ)に再利用する事業を行っています。食べ残しも、再利用すれば立派な資源。廃棄品を資源として循環させることも、環境を守る取り組みの1つです。